作業療法　　第 45 巻 第 3 号（通巻 252 号）目次

◆巻頭言

作業療法研究の知見を臨床現場での実践に ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 森元　隆文 255

◆総説

認知症のある人を対象とした作業の観察時に着眼する概念
—スコーピングレビュー— ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 小橋　美月・他 257

産業保健分野における作業療法士による一次・二次予防的支援
—スコーピングレビュー— ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 北上　守俊・他 268

◆原著論文

仕事と家庭を両立しながらキャリアを継続する女性作業療法士のプロセス
—複線径路等至性モデリング（TEM）を用いた分析— ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 髙橋　慧・他 277

地域包括ケア病棟に入院したパーキンソン病患者の自宅復帰に影響する予測因子の検討
・・ 竹村　悠介・他 288

通所リハビリテーションの利用修了支援に携わった作業療法士の経験 ・・・・・・・・・ 長尾　宗典・他 296

目標設定日誌が作業療法学生の生活に与える影響
—混合研究法を用いた探索的分析— ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 池内　克馬・他 305

作業バランス評価尺度（Occupational Balance Assessment Scale）の尺度特性
—医療従事者を対象として— ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 恩田　真也・他 315

急性期病院における認知症患者に対する介入初期の作業療法士の視点 ・・・・・・・・・ 野村　真弓・他 324

自閉スペクトラム症のある児童・青年の性行動に対する作業療法士の
支援の視点と課題 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 兵頭　洋子・他 333

◆実践報告

日本語理解が困難な外国人に対する非言語性検査を用いた自動車運転再開支援
—事例報告— ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 松本　幸樹 343

e-ASUHS による共同意思決定を通じて書字を再獲得した急性期脳卒中患者の一例
—SCAT 分析に基づくクリニカルリーズニングの検討— ・・・・・・・・・・・・・・・・ 岩崎　竜弥・他 350

慢性期脳卒中患者の麻痺手に対する随意運動介助型電気刺激装置または
ソフトロボットグローブを併用した外来作業療法の有用性 ・・・・・・・・・・・・・・ 藤野　誠・他 359

脳卒中後30 年経過した上肢痙縮に対してCOPM を用いた目標設定後のBTX-A 投与と
段階的な併用療法（装具・課題指向型練習）により機能と使用頻度の長期的改善を
認めた一例 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 武田　浩祐・他 367

高次脳機能障害を呈した脳卒中症例の復職に対する認識の変化
—就労支援の継続に向けた自立訓練での多職種支援— ・・・・・・・・・・・・・・・・ 西埜　和希・他 376

急性期慢性閉塞性肺疾患患者の在宅酸素療法導入における作業療法の専門性
—クリニカルリーズニングにより分析した事例報告— ・・・・・・・・・・・・・・・・ 今岡　泰憲・他 384

機能訓練に課題指向型アプローチを併用した介入により段階的に作業活動を再開することが
できた穿通枝皮弁術後の事例 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 中島　薫平・他 392

◆短報

脳卒中重症患者の肩関節亜脱臼に対する三角筋中部への電気刺激の即時効果
—超音波検査による評価— ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 園田　悠馬・他 401

編集後記

▸WFOT より「Minimum Competencies of Occupational Therapists」が 2026 年 3 月に公表された．本資料は，作業療法士に求められる知識・技能・態度・行動を示したものである．「専門的思考と行動」のセクションでは，国内外の期待に応えるために必要な資質が述べられている．また，「研究・情報検索プロセス」では，「研究結果が作業療法の課題にどのように寄与するかを特定する」「定性的・定量的結果を含む情報の関連性を評価する」「研究結果を用いて実践を正当化する」「専門的思考および批判的思考」などが示されている．これらは，本誌に掲載された研究報告に対する作業療法士としての向き合い方を明確に示すものである．改めてこの視点から研究を見直すことで，作業療法士としてのコンピテンシーの向上につながるだろう．

（J・U）

▸今号は総説，原著，実践報告と各カテゴリーで例年を上回る 17　編を掲載でき，多彩で活気ある一冊となりました．特に混合研究を含む質的研究や事例報告の増加は，作業療法特有の視点による研究や実践の着実な発展を物語っています．これは現場の疑問の解決や新しい実践を共有したいという投稿者の皆様の情熱の賜物と拝察いたします．また，一連の論文の裏には名前の出ない 34 名以上の査読者の献身的な協力があり，その積み重ねで本誌が成り立っていることも忘れてはなりません．こうした皆様の思いに触れ，編集委員として感謝と共に，改めて身が引き締まる思いです．本誌が今後も皆様と共に歩む研鑽の場となるよう，尽力してまいります．

（M・O）